

日本沈没と電子計算機



小松左京ライブラリ

<日本沈没のシミュレーションに活躍した電子計算機>

日本沈没の執筆では、当時最先端の電子計算機が大活躍しました。

パソコンの無い時代、手計算かソロバンか計算尺での日本沈没の様々な災害シミュレーションは困難を極めていましたが、この草創期の卓上計算機を手にいれてから小松左京のイメージーションとリアリティー追及のギャップが急速に埋まり、日本沈没の執筆が軌道に乗りました、この計算機が出現しなければ、日本沈没の発表は大幅に遅れ、またそれまでの煩わしい手計算状態が続いていたら、そこに執筆のためのエネルギーを奪われた結果、クライマックスシーンも随分違った印象になったかもしれません。



小松左京が使用していたキャノラ1200



沈没メカニズムを検討した創作メモ

<小松左京の思考ツール>

構想をアイデアメモでまとめ、それを元に電子計算機でシミュレーションを行う。

この電子計算機の登場で日本沈没の創作活動に弾みがついたことは、本人も対談の中で語っています。

もしこの電子計算機が現れなければ、日本沈没の創作活動は大幅に遅れ、できあがった作品も、今のものとは随分趣が違った印象の作品となっていたかもしれません。

小松左京にとって、日本沈没という大きな戦いに挑んだ際に駆けつけた、ある意味、戦友的な思考ツールでした。

『SFへの遺言』（光文社刊）より

一桁一万円って、それは信じられないけどさ。とにかく買ってみろって、十三万円で十二桁のを買って。四則演算でメモリもない。開平もできない。それでも、単純計算やってみた。それまで計算尺と筆算とソロバンで『日本沈没』の計算やっていて、一晩かかって四ステップか、五ステップしかいなくて。しかも、酒飲んで寝ちゃうもんだから、次の日に、何をどこまでやったのかわからなくなってた（笑）。ところが、それがあっという間に四十ステップぐらいいくわけだ。そうすると、次から次へ視野が広がってくるわけね。ははあ、電卓というのは思考道具だなと思ってね。

七〇年の終わりに安くなったから購入して。「第二次関東大震災の日」なんか、その時から書き始めて、あっという間に終わりの方まで書いた。七二年に仕上げた。

読んでみたらわかるが、三章までは『地球の科学』の理論の引き写しみたいなところがある。ところが、それからシミュレーションが入ってくるんだ。